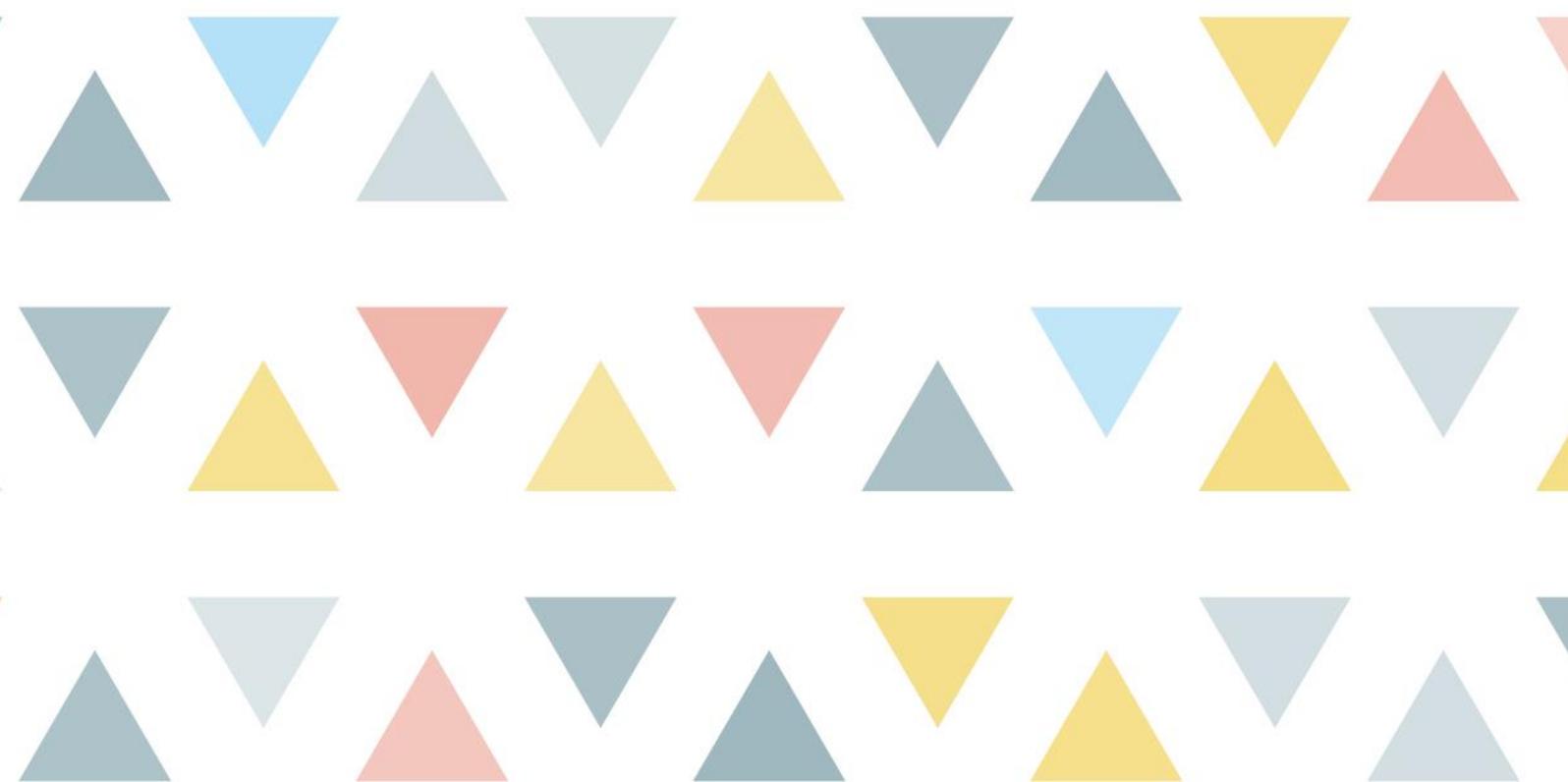


2023年度 京都府委託  
聞こえとコミュニケーションの  
サポートセンター事業

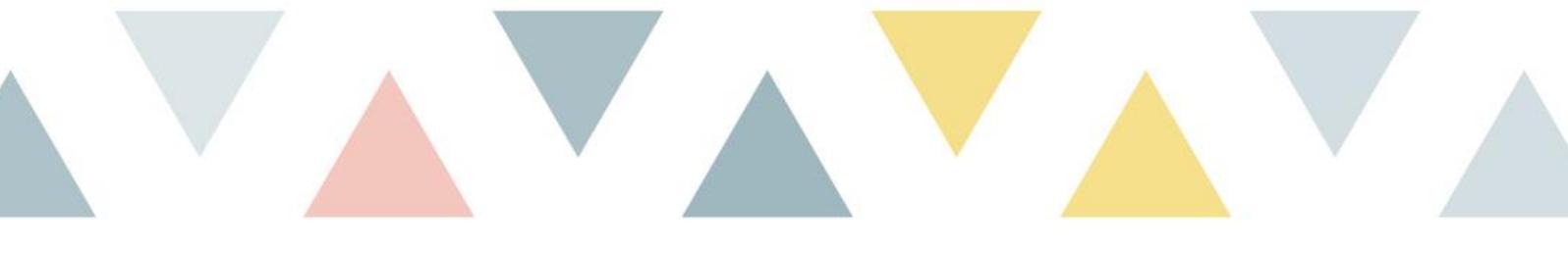
報告集





# 目次

ご挨拶・事業説明	—————	P3
聞こえとコミュニケーションの教室	—————	P4・5
大学・職場での聴覚障害者の合理的配慮を考える	———	P6・7
第5回 京都府耳のことフェスタ	—————	P8・9・10
来年度の取り組みについて	—————	P11





京都府聴覚言語障害センター  
所長 今西 和弘

このたびは、「2023年度京都府委託聞こえとコミュニケーションのサポートセンター事業報告集」をご覧いただきありがとうございます。

本事業は下記の事業説明の通りの内容、目的で京都府から委託を受けて実施しております。

「障害」は障害者ではなく、社会が作り出しているという障害者権利条約の考え方のもと、障害者が直面する「社会的障壁」に対して、社会で取り組んでいく必要があります。2024年4月1日障害者差別解消法が改正され、これまで、事業者（お店、会社、ボランティア団体等）は努力義務だった、合理的配慮（障害のある人と事業者が話し合い、障害のある人への配慮を行うこと）の提供が義務になりました。聞こえ方とコミュニケーション方法は個人によって様々です。その方が求める合理的配慮を提供するためにも、聞こえない、聞こえにくいことを正しく理解することが大切です。

現在、高齢社会といわれており、加齢による老人性難聴の方が増えています。また、人生のある時期から聴力低下が生じた中途失聴の場合もあります。そういった方々の社会での理解はまだまだ低く孤独に悩みがちな実態があります。聞こえる方にとってもいつ自身が聞こえない、聞こえにくくなるかわかりません。聞こえに関する問題は誰もが直面する問題といえるのではないのでしょうか。

この報告集が聞こえない、聞こえにくいとはどういうことなのか、また聴覚障害者の合理的配慮を考えるきっかけにさせていただけたら幸いです。

結びに本事業実施にあたり、企画段階からご協力いただいた、京都府中途失聴・難聴者協会、京都府要約筆記サークル連絡会のみなさまに感謝申し上げます。

## 事業説明

聞こえとコミュニケーションのサポートセンター事業は、平成30年3月に制定された京都府「言語としての手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人となない人とが支え合う社会づくり条例」に基づき、京都府内の中途失聴・難聴者を対象にして「聞こえに不便や不安があっても、安心して暮らせるまちづくり」をめざして行っている事業です。

中途失聴者・難聴者へのコミュニケーションの支援、補聴器やコミュニケーション支援機器の活用などの情報提供、学習や体験・交流を行い、聞こえに障害のある仲間づくりをすすめ、聞こえに障害のある方の社会参加を促進することを目的としています。

# 聞こえとコミュニケーションの教室

参加者数  
(北部・中部・南部)

91名

## ■ テーマ

講演：「難聴者特有のストレス・周りの方のストレスの解消法」  
ワークショップ：「聞こえの対処マップをつくろう」

## ■ 講師 勝谷 紀子氏 東京大学先端科学技術研究センター 特任助教



青山学院大学社会情報学部助教、北陸学院大学人間総合学部社会学科教授などを  
経て2022年より現職。ご自身も難聴当事者で「難聴者の精神的健康」等が研究テー  
マ。オンライン交流会「きこえカフェ」や落語活動など、精力的な活動を行ってお  
られます。

## ■ 内容

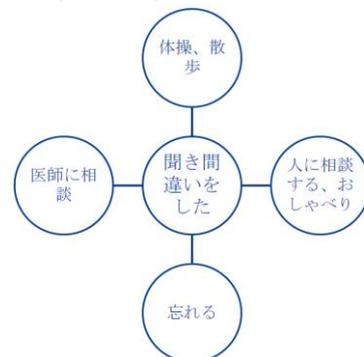
難聴当事者である勝谷紀子先生より、自身の体験を交えて、難聴者  
の心の健康に関連する要因や、実際のストレス体験の統計、具体的  
な心理的支援の種類について解説いただいた後、ワークショップを  
行いました。

ワークショップでは、ワークシートに「聞こえにまつわる困りご  
と」を記入し、グループのメンバーからコメントをもらい、聞こえ  
の対処マップ」を作成。作った「聞こえの対処マップ」を共有し、  
新たな気づきや発見をまとめてグループごとに発表しました。

### <参加者内訳>

	北部	中部	南部
当事者	6	11	18
要約筆記 サークル	21	13	12
関係者	2	7	1
不明	1	0	0
参加者合計	29	31	31

### <ワークシート>



## 北部

2023年 9月10日  
市民交流プラザふくちやま  
参加者数 29名



満足 5人  
やや満足 12人  
どちらでもない 0人  
やや不満 3人  
不満 0人  
無回答 3人

## 中部

2023年 9月12日  
南丹市八木市民センター  
参加者数 32名



満足 8人  
やや満足 8人  
どちらでもない 2人  
やや不満 2人  
不満 0人  
無回答 0人

## 南部

2023年10月14日  
相楽会館  
参加者数 31名



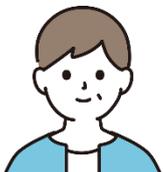
満足 10人  
やや満足 11人  
どちらでもない 0人  
やや不満 1人  
不満 0人  
無回答 0人

# 聞こえとコミュニケーションの教室

## 参加者の感想



いろいろ自分では考えつかない言葉を聞けて、コミュニケーション力をはかれるようになった気がしました。今後自身の勇気と積極性をもって頑張りたいです。非常にためになりました。



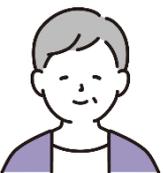
いろいろな立場の人達とワークショップで交流でき、様々な意見を交わすことができ良かったです。時間が足りないくらいに話が弾みました。



難聴者の方から、相手との会話での苦勞などを知ることが出来ました。自分自身が日頃から行っている聞こえにくさを感じておられる方への対応方法にもコメントをいただくことができ、良かったです。



聞こえにくい人の本音や、要約筆記者の日頃の思いが聞けてよかったです。これからもひとりよがりにならないようにしたいと思います。



あらためて自分の課題を知ることができました。その課題が自分の人生をネガティブにしている要因のひとつだと気づきました。今回の企画を機に、うまく紐解いていきたいと思えます。

### <勝谷紀子先生より>

3地区でのワークショップは、私にとっても大変有意義かつ実りの多い経験となりました。参加者の皆さん、頼もしいフットワークで動いて下さった職員の皆さんに感謝申し上げます。京都の地理に不慣れで木津川地区の会では到着が遅れましたことをお詫びいたします。ワークショップを通し、さまざまな難聴にまつわる困りごとを抱えておられること、それらをうまく表現できる言葉が必ずしもすぐに見つかるわけではないこと、ご経験を他の人びとと共有することの大切さを改めて実感しました。時間配分やワークシートの改善点など多くの気づきもありました。今後さらに取り組みやすい、参加しやすいワークショップに改善していきたいと思えます。

### <参加者満足度>

	北部	中部	南部
満足	5	8	10
やや満足	12	8	11
どちらでもない	0	2	0
やや不満	3	2	1
不満	0	0	0
無回答	3	0	0
アンケート回収	23	20	22
参加者合計	29	31	31

### 振り返って

ご自身が難聴で人工内耳を装着されている勝谷先生の講演は、当事者だからこそ伝えられる難聴についての実態をお話しされました。

特に印象的だったのは、様々な対処行動について、適切な手段を使用する意思決定の支援が必要であるという内容でした。

聞こえ辛いのがゆえに生じてくるストレスといかに向き合うか。又それを軽減するためには要約筆記者の存在は絶対だと、当協会会員は認識しているのです。

講演後、ワークショップにて支援する側と支援される側とが、双方の困りごとを出し合い、実例を上げつつ意見交換の場となった良い機会でした。

お互いに求めているものが何かを知り、今後活かしてより一層の期待が持てるひと時になりました。



# 「大学・職場での聴覚障害者の合理的配慮を学ぶ」

## ■内容

### ・合理的配慮ミニ講演

講師：岡本耕平（京都府中途失聴・難聴者協会 会長）

### ・当事者座談会

コーディネーター：西岡保（京都府中途失聴・難聴者協会 役員）

当事者2名（野口万里子・占晶）

### ・企業実践報告 3社

株式会社堀場製作所・株式会社ワコール・株式会社キトー

参加者数

58名

## ■日程 2023年10月28日（ウェビナー）

### ■合理的配慮ミニ講演

障害者雇用促進法・障害者差別解消法の基礎知識や合理的配慮の「過度な負担が生じない範囲」のポイントを解説いただきました。  
また、職場における合理的配慮提供のための流れを学び、雇用されている当事者と事業所双方において確認が必要だとまとめがありました。



### ■当事者座談会

企業に勤める当事者2名とコーディネーター1名での座談会で、職場環境構築について、職場の様子や当事者の働きかけ方について、お話しいただきました。  
事業主との建設的な対話につなげていくために、自分の障害についての説明、またどのようなサポートが必要であるか、自分から発信することが大切であるというコーディネーターからのまとめをもって座談会は終了しました。



#### <参加者満足度>

満足	20
やや満足	10
どちらでもない	0
やや不満	0
不満	0
無回答	28
合計	58

#### <参加者内訳>

関係者（家族・支援者）	12
関係者（企業）	5
当事者（手帳あり）	9
当事者（手帳なし）	3
無回答	29
合計	58

#### <参加者の感想>



各企業の上層部が、障害者の適正把握と活躍の取り組みを積極的に進めているのが印象的でした。また、当事者から声を上げてもらう、それをいかに引き上げていくかも大切なことだと思います。  
各企業の取組例は自分の職場の参考にもしたいと思いました。（企業関係者）



障害者というと手帳の有無を思ってしまうが、それは狭い考えだったと気づかされました。聴覚に問題を抱えた方の状況は個々違っている以上、コミュニケーションの中で相手の障害の個性を丁寧に理解することが重要だと思いました。（行政関係者）



企業のお話を聞ける機会はあまりないのでとても勉強になりました。  
また座談会でも皆さんの悩みなどを聞いて具体的な対応策が聞けたことが良かったと思います。（当事者）

# 「大学・職場での聴覚障害者の合理的配慮を学ぶ」

## ■企業実践報告

### ①株式会社堀場製作所

聴覚障害者が在籍する部署での工夫や機器の説明がありました。聴覚障害のある当事者と上司が一同に介し、それぞれどのような悩みを持っているか知るための研修会を行い、その後UDトークの導入等に関する研修を実施するなど、企業内での取り組みをご紹介します。

#### <株式会社堀場製作所様>



### ②株式会社ワコール

コミュニケーションツールの説明や、オンデマンド配信における字幕付き動画の配信等合理的配慮について説明がありました。また、社員食堂のカード作成や社内放送の内容をリアルタイムでメール配信するなど、当事者の声から生まれた事例についてもご紹介いただきました。

#### <株式会社ワコール様>



### ③株式会社キトー

目で見て分かる様々な設備のご紹介がありました。聞こえない状態で工場内を歩く「聞こえない研修」を実施し、どのような危険があるか当事者目線で体験し、安全対策につなげる取り組みのご紹介をいただきました。

#### <株式会社キトー様>



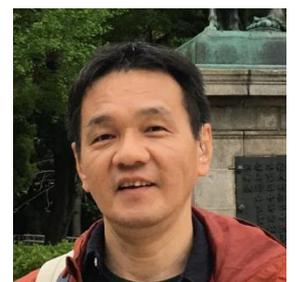
配信・画面構成協力：株式会社アステム

## 振り返って

事務局の方が当事者団体と共に作り上げようと、企画段階から私たちの意見に耳を傾け、相談しながら進めることができました。企業実践報告・当事者座談会を織り込み、京都聴覚言語障害者福祉協会と当事者団体双方の強みを発揮、それが好評に繋がりました。

職場での従業員への合理的配慮から、その配慮を社会に発信、ひいては社会全体の合理的配慮に。大きな組織の壁と一人で闘っている当事者を勇気づける内容でした。

当事者団体が課題と考えていることに耳を傾けていただけたことに感謝すると共に、今後も共に作り上げていけたら嬉しく思います。



# 第5回京都府耳のことフェスタ

- 日時：2024年3月10日（日）午前11:00～午後3:00
- 場所：南丹市八木市民センター「iスタやぎ」

参加者数  
**180名**

## 講演会場

- 11:45～12:15 電話リレーサービス説明・実演
- 12:30～14:00 講演

「ろう・難聴者の情報保障を考える～ICT活用のあゆみと今後の展望～」

- 1部 基礎講座：聴覚障害と情報保障のキホン
- 2部 応用講座：イマドキのICT活用と今後の展望

講師 若月 大輔 氏（筑波技術大学 産業技術学部 教授）



2003年新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。新潟大学、筑波技術短期大学を経て、2021年筑波技術大学産業技術学部教授。主な研究領域は福祉工学、教育工学。特に、ろう・難聴者の支援に関心があり、ウェブベース遠隔文字通訳システムcaptiOnlineを研究開発し公開中。博士(工学)。



<若月大輔先生より>

このたびは、講演の機会をいただきありがとうございました。ろう・難聴の方が抱えているコミュニケーション上の困難から、それを支援する最新の情報保障技術までを、お話をさせていただきました。ご参加いただいた皆様は、熱心に私の話を傾けて、あるいは目を向けてくださり、京都府が目指している「きこえに不便や不安があっても、安心して暮らせるまちづくり」に対する意識の高さを強く感じました。少しでも、ご参加いただいた皆様の参考や、活動につながる機会になれば嬉しく思います。



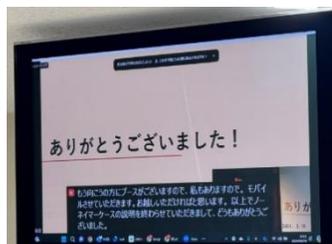
パソコン等の操作に苦手意識がありました。今日の話は遠隔での繋がり方をわかりやすく聞いて、大変おもしろかったです。QRコードをスマホで読み取って音声認識文字が見られたのも、とても感激しました。



遠隔情報保障の利点やデメリットを考える良い機会だと思います。自分にとって一番合う情報保障の選択肢が増えるのは良いこと。手話では伝えきれない専門用語等は文字通訳の方が分かりやすいという話には共感できました。

## 飲食・交流スペース

交流スペースで、講演会場の様子を配信しました。



飲食ブースで講演会場の様子が見られました。久しぶりの方とコーヒーを飲みながらお話し、くつろげる空間でした。



## 機器体験ブース

- Otonna (体験)、エキマトペ (動画上映) / 富士通株式会社
- アイドラゴン4 / 認定NPO法人 障害者放送通信機構
- 日常生活用具の体験・相談 / 株式会社自立コム・有限会社千里福祉情報センター
- Sound Display / tdi 情報技術開発 株式会社
- VUEVO (ビューボ) / ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
- 電話リレーサービス登録・相談・体験 / 一般財団法人日本財団電話リレーサービス
- Raelclear (レルクリア) / (株)ジャパンディスプレイ
- comuoon® (コミューン) / ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
- 骨導補聴器ADHEAR / メドエルジャパン株式会社
- 補聴器説明・相談 / 補聴器店スマートヒアリングエイドサービス
- 補聴援助システム相談・体験 / フォナック・ジャパン株式会社



### 機器体験ブースに出展して

大変多くの方が私共のブースにお越しくございました。本当にありがとうございました。改めて補聴器についての関心の高さを感じました。ご相談内容については、まず、補聴器を検討されている方は、どこで購入すべきかお尋ねくださいました⇒補聴器相談医の耳鼻咽喉科の受診をすすめました。適切な補聴器店を紹介していただけます。次に、既に補聴器をご使用で調子のよくない方のご相談です⇒こちらは、きこえの森診療所様のように、補聴器をつけた状態でどれくらい聞こえているのか、第三者機関でチェックしてもらう事も有効だとお伝えしております。あとメンテナンス不足の不具合も散見されました。半年~1年に1度は購入店でみてもらう事をおすすめいたします。

補聴器店スマートヒアリングエイドサービス 奥田



ロジャーとVUEVOの体験をしました。  
もっと広く普及して、価格が下がり購入しやすくなれば良いと思いました。  
機器の進化がめざましいので、このような機器展は一年に一度は体験したいです。

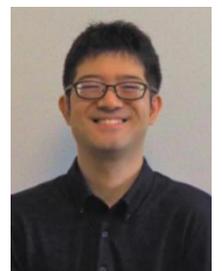


興味のあるブースがたくさん展示されていて、体験もできてよかったです。  
日常生活用具の相談や体験もできましたし、  
電話リレーサービスの登録もすぐにできて良かったです。

### 振り返って

第5回京都府耳のこことフェスタに参加して、多くの機器体験や展示ブースがあり、若月氏の講演にと、様々な物や事を知ることができました。  
特に最新のICT機器を直に体験することができ、技術の進歩に驚かされました。これらは聴覚障害に限定したものではなく、外国語変換等にも使用でき、ユニバーサルな発想で、あらゆる方々にも使える機器となっているとお伺いしました。将来はどこにでも当たり前設置されている世の中になりそうな未来を想像できる良い機会でした。

京都府中途失聴・難聴者協会 岡本耕平



# 2024年度の取り組みについて

## ■内容

- ①京都府難聴ポータルサイト「KIKOE SUPPORT」を開始
- ②公式LINEによる情報発信を開始
- ③耳のことフェスタに向けて  
当事者・耳鼻咽喉科医師・企業など様々な立場同士の「つながる場」をつくる
- ④合理的配慮の提供の義務化など変化に合わせた対応ができる体制づくり
- ⑤音声認識などの最新技術の取得を目指し積極的に取り入れる

9月頃

・聞こえとコミュニケーションの教室

11月頃

・大学・職場での聴覚障害者の合理的配慮を学ぶ

2023年度と同じ形式の学習会を予定。

参加していただける大学や企業の数を増やせるようアプローチします

2月頃

・京都府耳のことフェスタ

地域の耳鼻科の医師とつながる機会を新たに追加企画する予定

## 編集後記

この度、2023年度の事業報告集を無事に完成することができました。

編集にあたり、多くの方のご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、新しく担当をさせていただいた2023年度、不慣れな点多々ございましたが、特に聞こえとコミュニケーションのサポートセンター事業での学習会や耳のことフェスタにおいては、多くの方との出会いを経験させていただきました。

また、お忙しい中にもかかわらず、京都府中途失聴・難聴者協会、京都府要約筆記サークル連絡会のみなさまには、この1年間、ご助言や情報提供、温かい言葉を都度かけていただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

引き続き、皆様と一緒に、まだ京都府聴覚言語障害センターの存在を知らない多くの聞こえにくい方へ、そして社会で働く聞こえにくい方へ、企業や大学の方へと、この明るくて元気な輪の中に、もっと巻き込む取り組みをしていきたいと思っています。

2024年度も、皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

情報提供施設第一部 一同

## 京都府聴覚言語障害センターまでご相談ください

- ・社内研修動画への字幕・手話挿入
- ・社内研修（聴覚障害者研修・手話研修・音声認識ソフト導入研修・修正研修など）
- ・雇用された聴覚障害者の手話通訳・文字情報保障派遣など企業の環境整備を行っています  
電話リレーサービス法人登録のご相談も賜ります

問い合わせ先：京都府聴覚言語障害センター

〒610-0121城陽市寺田林ノ〇11番64

（電話番号）0774-30-9000 （FAX番号）0774-55-7708

発行日：2024年7月

発行者：社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会 京都府聴覚言語障害センター



社会福祉法人  
京都聴覚言語障害者福祉協会

